# 港って何！？
# 次世代の担い手確保に向けた広報戦略

川邊　颯大[1]　山口　慎介[2]

[1]中国地方整備局　宇部港湾・空港整備事務所　工務課（〒745-0045 山口県周南市徳山港町8475-17）

[2]中国地方整備局　宇部港湾・空港整備事務所　企画調整課（〒745-0045 山口県周南市徳山港町8475-17）

徳山下松港は，2022年に開港100周年を迎えた．これを機に周南地域（周南市，下松市，光市）の発展の源である「徳山下松港」を広く周知し，次世代へと引き継ぐべき大切な財産である「港」と「海」への愛着と誇りの醸成に向けて「徳山下松港開港100周年記念事業実行委員会」が設立され，2022年2月から約1年間の間に様々な記念事業が展開された．宇部港湾・空港整備事務所では，開港100周年記念事業を通じた周南地域での港への関心の高まりを好機ととらえ，港湾の認知度向上に向けて積極的な広報活動に取り組むこととした．本稿では，宇部港湾・空港整備事務所が実施した広報活動とその成果について報告する．

キーワード　徳山下松港開港100周年協賛事業，広報活動，出前講座，
双方向コミュニケーション，現場見学会

## 1. はじめに

徳山下松港は山口県中央部に位置し，周南地域にまたがる国際拠点港湾である（図-1）．周囲を瀬戸内の島々に囲まれ古来より天然の良港として栄えてきたが，港湾整備の促進とともに1965年に特定重要港湾の指定を受け，主として周南地域の石油化学コンビナート，機械製造業など活発な企業活動を支える工業港として地域の発展に寄与してきた．現在では，取扱貨物量全国16位（2021年）を誇り，2011年には国際バルク戦略港湾に選定されるなど，国際海上輸送の拠点として日本を代表する港湾へと発展を遂げ，2022年には開港から100年を迎えた（図-2）．

これを機に，周南地域の発展の源である「徳山下松港」を広く周知し，次世代へと引き継ぐべき大切な財産である「港」と「海」への愛着と誇りの醸成に向け，周南地域の港湾関係行政機関（当事務所含む．）や港湾関

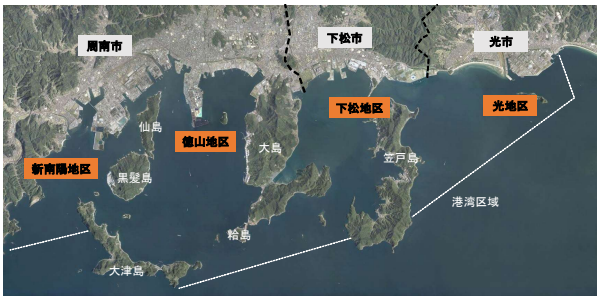


図-1　現在の徳山下松港

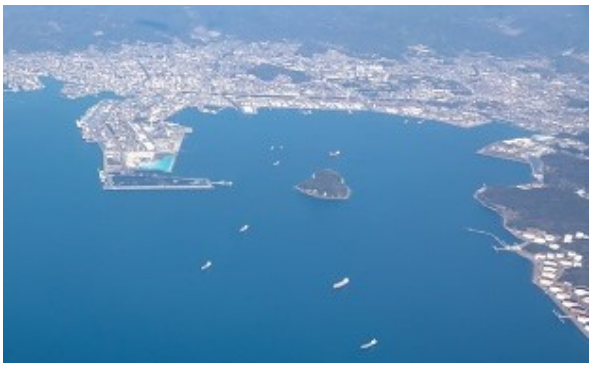

図-2　大正時代の徳山下松港徳山地区[1]（左）
現在の徳山下松港徳山地区（右）

図-3　徳山下松港開港 100 周年記念事業イベント
帆船 3 隻同時寄港の様子

係団体等によって「徳山下松港開港100周年記念事業実行委員会」が設立され，2022年2月から2023年3月にかけて様々な記念事業[2] が展開された．

宇部港湾・空港整備事務所（以下「当事務所」という．）では，開港 100 周年記念事業を通じた周南地域での港への関心の高まりを好機ととらえ，港湾の認知度向上に向けて積極的な広報活動に取り組むこととした．本稿では，当事務所が実施した周南地域の小学生や土木を学ぶ高専生・大学生及び一般市民を対象とした広報活動とその成果について報告する（図-3）．

## 2. 港湾の認知度向上に向けた広報戦略

島国である日本は経済活動に必要な物資の多くを海外からの輸入に頼っている．港湾は，輸出入貨物の 99.5%を担っており，海外との玄関口として，物流，人流の拠点となり，私たちの生活の質の向上や地域経済の活性化を促す重要な役割を担っている．

しかし，港はフェンスなどによって立ち入り禁止措置が取られている場合が多く，自由に立ち入りができないため，日常生活で直接的に触れる機会も少ない．港そのものの認知度が低く，港や港で働く人達に目を向けることがないため，港湾政策や港湾整備事業に対する理解が進まないうえに，次世代の職業の場としての選択肢にもならず，担い手不足が加速しやすい現状にある．

そこで「港湾を知らない」・「港湾に興味がない」ことを前提として，直接的に港と関わる機会がない人々の第一印象を，港は「おもしろいもの」・「スゴいもの」とすることを目標とし，広報活動を展開することとした．

広報活動を行う上で，世代によって物事のとらえ方・環境が異なるため，次の3つのターゲットに分けて戦略的に進めることとした．

① 子供
② 土木系学科を専攻する学生
③ 一般市民

## 3. 子供を対象とした広報

小学生などの子供へのアクションとして，楽しみながら港を知ってもらうことで港に興味を持ってもらうことを狙う．特に，好奇心旺盛な子供の憧れに繋がれば，自ら本質や価値を知ろうと行動し，周りの大人も子供の行動をサポートするために興味を持つはずである．

徳山下松港開港100周年記念事業の一環として，子供達が港湾とその重要性や魅力を楽しく学べるコンテンツとして，出前講座「Show!楽♪港！」を企画・実施することとした．

### (1) 授業概要

開港100周年記念事業をきっかけとして，周南地域の小学生が学校同士の交流を深めてもらうことも目的の一つとし，コロナ禍に配慮しながらもより多くの小学生に参加してもらうため，当事務所では初となるオンライン方式による出前講座を実施することとした．

対象学年は社会科で「貿易」について学ぶ小学5年生とし，教育委員会を通じて周南地域の全小学校へ参加募集を行った．結果，14校26クラスより応募があり，約650名の児童が参加することとなった．

実施時期は，「貿易」について学ぶ時期かつ開港100周年記念事業のメインイベントである“「日本丸」「海王丸」「みらいへ」帆船3隻同時寄港イベント”の開催日（11月5日）に近い10月27日，11月1日，11月4日の3日に分けて行うこととした．

授業の進め方は，コロナ禍であることに配慮しつつも児童の反応を確かめながら進行するために，配信拠点を設けて対面授業を行いながらweb会議サービスで複数クラスにオンライン配信するハイブリット形式とした．また，オンライン授業は一方通行となりやすく，ビデオ配信のようになるとリアルタイムで行うメリットがないなどの懸念があった．そこで，オンライン参加のクラス同士の交流を目的に，ブレイクアウトルーム機能を活用してグループワークを行う授業計画とした．

内容は①貿易と産業の関係を知ってもらうために「みなとの役割」，②地域の港に愛着を持ってもらうために「徳山下松港の特徴」，③持続可能な社会を意識してもらうために「SDGsに資するブルーカーボン生態系」とした．授業スキームは図-4の通り，参加校全体で授業を行いながら，授業中に出されるクイズ形式の課題に対しては，3～4クラスで構成したグループごとに分かれて交流しながら課題を解決する方式とした．

### (2) 実施状況

授業では，クラスの中で気心の知れた友達と話し合いながら自分の考えを整理した後，図-5のように各クラス

図-4　授業スキーム

図-5　交流時の発表の様子

図-6　集合写真

数名ずつ発表することで，学びの時間といろいろな考えを周南地域の仲間と共有することができた．授業後に学校向けに実施したアンケートでは，「一緒に学ぶ機会のない他の学校との交流を楽しむだけでなく，自分の考えを発表し，相互にいろいろな考え方を学ぶ有意義な時間であった」とのコメントがあり，交流の価値がうかがえた．授業の最後は，画面上で図-6のように参加者全員による集合写真を撮影した．「みなとが好きな人？」と問いかける講師のかけ声に，小さな画面越しでも伝わる笑顔で元気よく手を挙げていた児童の姿が印象的であった．

### (3)　実施後の様子

授業終了後，各学校ではクラス単位の寄せ書きや個人単位のオリジナル新聞等で振り返りも実施され，「今まで知らなかった徳山下松港の大切さがよくわかった．」や「（前述した）帆船のイベントに行ってみたい．」など，港に対して関心が深まったという多くの感想が寄せられた（図-7）．

図-7　振り返りの一例

図-8　現場見学会の様子

さらに，出前講座に参加した小学生を対象に現場見学会を実施し，港湾整備のスケールの大きさを体感してもらうこともできた（図-8）．

開港100周年をきっかけとして実施した「Show！楽♪港！」を通じて，周南地域の小学生がつながり，生活に必要不可欠な「みなと」を身近に感じてもらうことができたと考えている．

## 4. 土木系学科を専攻する学生を対象とした広報

山口県内の土木系学科を有する学校の多くは，港湾土木を専門とした教職員がいないため，港について学ぶ機会がない．さらに，教職員自身が港湾行政や港湾土木との関わりが少ないことから，進路指導において港湾関係を選択肢としてあげにくく，学生の職業選択につながりにくいといった課題がある．

当事務所では，港湾行政や港湾土木への理解を深めてもらうため，山口大学をはじめとした県内の学校において特別講義や現場見学会を行っており，その内容について報告する．

### (1)　工業高等専門学校の学生を対象とした講義

徳山下松港開港100周年記念事業をきっかけとして，2022年より徳山工業高等専門学校（以下「徳山高専」という．）の3～5年生を対象とした特別講義を開始した．

徳山高専では港湾工学を学ぶ機会がないため，港や港湾土木の世界をまずは知ってもらうことを目的として講義を行った．さらに，徳山下松港では国内最大級の起重機船を使用した大規模な港湾工事を行っていることから，課外授業としての現場見学会を複数回開催した．

結果，4年生（当時）の1人が当事務所のインターンシップに参加し，職業選択の場としても港湾土木分野に興味を持ってもらうことが出来た．また，5年生（当時）の中には港湾行政の魅力に惹かれ，中国地方整備局に入省した学生もいた．このように，特別講義を行うことで，普段の授業で学ぶ機会がない港湾行政や港湾土木の世界に興味を持つ学生が一定数いるため，職業の場としての選択の一つになり得ると知ってもらうことが重要であるといえる．

また，特別講義を受講した学生を対象として，講義から1年経過した後にアンケート調査を実施した結果，教室での講義は記憶に残っている学生が少なかったものの，現場見学会については，記憶に残っていると答えた学生が約9割おり，「規模が大きな工事に憧れを持った」，「重機やケーソンの大きさがとても魅力的だった」といった感想があった．このように現場見学会は，実際に働く現場を見てもらうと同時に現場の魅力に気づいてもらうことができるため，積極的に行うべきである．

### (2)　山口大学の学生を対象とした講義

当事務所では，山口大学社会建設工学科3年生の学生を対象として，港湾工学の特別講義を毎年行っている．

講義は，全15回（90分/回）に分けて，港の概要から港湾計画，設計，港湾工事など，港湾に関して幅広く専門的な知識を習得することを目的としている．また，講義の中では，同学科の卒業生を中心とした各業界からの講義の他，現場見学会も開催しており充実した内容となっている．

学生からのレポートにおいても，「スケールの大きい事業を行う仕事に憧れを持った」，「他の港湾についても詳しく知りたいと感じた」，「どの土木工事に携わるとしても大きなやりがいが感じられると思った」「大学のOBが港湾の仕事をしていることを聞き，将来の自分を重ねた」といった感想があった．

山口大学では，港湾行政や港湾土木業界へ就職する学生も多く，このように港湾に焦点を当てた授業を開講することは，港湾に従事する職業を意識し，職業選択として考えてもらうきっかけとしては十分な効果がある．

### (3)　現場見学会の工夫

上述した徳山高専や山口大学の他，徳山商工高等学校など県内の土木系学科のある学校を中心として，大規模な工事のタイミングにあわせて現場見学会を行っている．2022年は，主に徳山下松港徳山地区において国内最大級の起重機船（4,100t吊）を使用して実施した岸壁本体となるケーソン据付作業を多くの学生に見学頂いた．

見学会の工夫として，当事務所のみでは無く施工会社の協力も得て，作業船への乗船やVR体験，施工会社からの現場説明や体験談を通じて，より現場に近い距離感での見学会として企画している（図-9）．

また，見学会の様子を報道関係者にも公開することで，港湾工事の様子や学生の生の声を広く報道してもらう他，国土交通省港湾局や中国地方整備局のSNSを通じて，一

図-9　現場見学会の様子
山口大学の下松地区桟橋見学の様子（上）
徳山高専のVR体験の様子（中）
徳山高専の徳山地区岸壁のケーソン見学の様子（下）

般市民の方にも広く港湾土木の魅力を発信している．

## 5. 一般の方を対象とした広報

当事務所は，関係自治体や港湾利用者とのやり取りはあるものの，一般市民をはじめとした地域の方々と交流する機会は少ない．前述の子供や学生を通じた港湾への興味だけでなく，広報誌の発行や，HP・SNSの活用，地域の港に関するイベントにあわせて「みなと見学ツアー」を開催することで，より多くの方に港を日常生活の一部として認識してもらうことを目的として広報活動を行っている．

### (1) 広報誌「PortUbe」の発行

『当事務所の存在は地域に知られていない』ことを前提とし，港湾行政や当事務所の認知度向上を目的とした広報紙「PortUbe」（図-10）を創刊した．事務所名の“宇部港湾“を捩ったダジャレから生まれた広報紙は，1枚の映える写真を活用することで，まずは手に取ってもらうことを意識し，当事務所・出張所にはもちろん，JR徳山駅（図-11）や周南市役所内等，管内の8カ所に設置し，誰でも気軽に手に取ることができるようにしている．興味を持ってもらえた人に当事務所のHPへアクセスしてもらうためのQRコードも明示している．さらに，広報ツールに一貫性を持たせるために，手作りの写真撮影用パネル（図-12）を作成した．後述する「みなと見学ツアー」等で活用することにより，港を背景とした記念写真を撮ってもらうことができ，撮影後，パネルに列挙したハッシュタグ（#）に注目してもらうことで，パネルを利用した人だけでなく，その写真を見た人にも港に興味を持ってもらうことができる．

図-10　PortUbe

### (2) みなと見学ツアー

みなとに関するイベントにあわせて，当事務所が所有する港湾業務艇「おおつ」にて，職員のガイドにより港内を巡る「みなと見学ツアー」を行っている．2022年は徳山下松港で開催された周南みなとまつり「みなとのミーツ」や「開港100周年帆船3隻同時寄港イベント」の他，みなとオアシス三田尻で開催された「ハモフェス」などの際に「みなと見学ツアー」を行った．

一般公募により参加者を決定しているが，定員40名に対して，毎回，200名以上の応募が殺到する人気イベントとなっており，小学生からお年寄りまで幅広い年齢層の方々に参加頂いている（図-13）．

図-11　徳山駅と岩国ポートビルの PortUbe 設置状況

図-12　PortUbe パネル

図-13　みなと見学ツアー

みなと見学ツアーでは，港と産業の関わりや港湾整備事業の説明を行い，我々の生活の中での港の重要性を伝えている．参加者からは，「初めて海からコンビナートを見て，港の重要性がよく分かった」，「地元にいても知らないことが多く，いい経験になった」など，嬉しいコメントを多く頂いている．

## 6. おわりに

このように，当事務所では，港を知ってもらう，興味を持ってもらうためにそれぞれの年齢や世代に沿った方法で広報活動を行っている．

次世代の担い手確保に向けて最も必要なことは，まずは広く港を知ってもらい興味をもってもらうことであり，広報活動を継続していくことが重要である．

特に若い世代に対しては，港や港湾整備事業の現場を直接体感してもらうことで，体験が記憶として強く残ることから，直接体感する機会を積極的に創出していくことが重要である．

広報活動における副次的な効果として，出前講座やみなと見学ツアー，広報誌の発行等にあたって，学校関係者や地元行政機関，商工会議所等との調整機会が多く，当事務所との連携が強化された．さらに，教職員をはじめとした関係者自身が港湾に関心をもって頂くことが非常に多く，広報活動そのものが当事務所や港湾の認知度向上に繋がっていると感じている．また，広報活動を行うことで，職員自身が仕事の意義・やりがいを再認識することとなり，仕事に対するモチベーションの向上にも繋がっている．

日常生活では直接的に関わりにくい港湾に目を向け，興味を持ってもらう土壌を作っていくため，当事務所では引き続き積極的な広報活動に取り組んでいく所存である．

**謝辞**：広報活動にあたって，趣旨にご賛同頂き多大なご協力を頂きました教育委員会をはじめとした学校関係者の方々，関係行政機関の方々にこの場をお借りして感謝申し上げます．

**参考文献**

1）徳山下松港開港 100 周年記念事業特設ホームページ tokuyama-kudamatsu-port100th.com
2）徳山下松港 100 周年記念事業　事業報告書 tokuyama-kudamatsu-port100th.com